

一二 「ブラジル」移民関係雑纂	三六〇
一三 「メキシコ」革命動乱関係一件	四三一
一四 露国革命関係一件	四三六
一五 反過激派関係雑件	四七九
一六 「オムスク」政府承認問題一件	五三二
一七 「シベリア」出兵関係一件	六〇六
附録 日本外交文書大正八年第一冊日附索引	

事項一 米国移民法制定及修正一件

一 三月二十二日

在ポートランド杉村領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

人種の差別無キ移民政策ノ採用ヲ主張スル

「オレゴニアン」社説報告ノ件

第一九号

三月二十二日発行ノ「オレゴニアン」ハ其社説ニ於テ何人ニモ平等ナル法律ヲ作レト題シ石井大使ノ講和會議ニ対スル人種の差別待遇撤廃ノ要求ハ人種ノ如何ニ拘ラズ市民タルベキ外国人個人ノ適不適及ビ当国ノ労働能力ヲ基礎トスル移民政策ヲ採用スベキ必要ヲ促セルモノナリ此方法ヲ採用セバ外国ヨリモ抗議セラルル虞ナカルベシ日本ハ其国人ヲ送ラムガ為抗議スルニ非ズ唯当国ノ法律ニ於テ其人民ヲ他国人ニ比シ劣等視セラルルヲ欲セザルガ為ナリ吾人ハ実際上日本人ヲ制限シ得ルト同時ニ斯カル不面目ヲ免レシムル手段ナキニ非ズ夫ハ過般 National Committee for Constructive immigration legislation ニ依リ提議セラレタル各国ヨリノ移民入国数ヲ現在米国ニ於ケル外国人中帰化又

ハ出生ニ依リ米国市民トナレル者ノ数ノ幾割カニ制限スル方法ニ依リ達スルヲ得ベシ右割合ハ五分ヨリ一割五分マデトシ毎年移民委員ニ於テ当国労働界ノ状況並ニ米国人ノ生活費労働賃金ノ高低等ヲ考量シ之ヲ決定スル事トセバ事实上是等東洋移民ヲ現在以上ニ制限スル事ヲ得ベシ故ニ常ニ正義平等ヲ標榜スル我等米国人ハ此際其主義ノ実現ニ努メザルベカラズ然ルニ支那人排斥法存在シ又排日の法律ヲモ有スルハ正義平等ノ主義ト相反ス講和會議ハ単ニ平和ヲ締結シ国際連盟ヲ組織スル為ノミノ会合ニ非ズ同連盟ガ今後施行スベキ主義ト一致スル様各国間ノ紛議ヲ調節セザルベカラズ前記ノ方法ニ依リ移民法ヲ改正セバ何等自国ノ利益ヲ害スル事ナクシテ上述ノ目的ヲ達シ得ベシ云々ト論ジタリ

大使へ電報セリ

二 五月二十四日

在米国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米国下院ニ亜細亞人労働者入国禁止案及二個

一 米国移民法制定及修正一件

一

年間外国移民入国禁止案ノ提出アリタル件

第三八八号

加州選出下院議員 McLaughlin ハ亜細亜人労働者入国禁止案及二ヶ年間移民入国禁止案ヲ提出シ又「ワシントン」州選出下院議員「ジョンソン」ハ二ヶ年間外国移民入国禁止及移民ノ登録並ニ同化等ニ関スル法案ヲ提出シ三案共委員附託トナレリ

三 五月二十九日

在米 石井大使ヨリ
内田外務大臣宛

米国下院移民及帰化委員長ジョンソン提出ノ

新移民法案ニ関スル件

附屬書

同日石井大使宛在桑港、ロスアンゼルス、シアトル、ホノルル各領事宛公信写

公第二三八号

(六月二十五日接受)

大正八年五月二十九日

在米

特命全權大使 石井菊次郎(印)

外務大臣子爵

内田 康哉殿

大正八年五月二十九日附在桑港、ロスアンゼルス、シアトル

ル、ホノルル各領事宛別信写送付

(附屬書)

石井大使宛在桑港、ロスアンゼルス、シアトル、ホノルル各領事宛公信写

桑往第八号

羅往第六号

沙往第九号

布往第四号

大正八年五月二十九日

在米

特命全權大使子爵 石井菊次郎

在桑港、沙市、ロスアンゼルス及ホノルル

各領事殿

新移民法案ニ関スル件

今回ワシントン州選出下院議員ニシテ下院移民及帰化委員長タルジョンソン氏ニヨリ別紙新移民法案議會ニ提出セラレ候処右ハ大体移民局ノ意見ニ基キ作成シタルモノニシテ從來屢々議會ニ提出セラレタル同種議案ト性質ヲ異ニシ有力ナル議案ナルノミナラズ其ノ法律トナリ実施セラル、ニ於テハ在留本邦人及今後ノ渡航者ニ対シ影響スルトコロ不

尠ベクト被存目下当方ニ於テ篤ト研究中ニ有之候得共貴官ニ於テモ詳細御研究ノ上何等御気付ノ点至急当方及本省へ御報告相成度此段申進候也

註 別紙省略

四 六月七日

在米 石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一時的移民禁止及在留外国人取締ニ関スル各

種法案米國議會ニ提出ノ狀況報告ノ件

第四一一号

往電第三七八号及往電第三八八号報告以後一時的移民禁止及在留外国人取締等ニ関スル各種法案統々両院ニ提出セラレタルガ最近下院移民委員會ニ於テ(一)一定期間移民入国ヲ禁止スルコト(二)好マシカラザル外国人ノ追放(三)外国人革命運動等ノ行動ヲ嚴重ニ監視スル為外国人登録制度ヲ設定スルコト等ニ関スル法律制定ノ目的ヲ以テ六月十二日ヨリ關係者ノ意嚮ヲ聴取スルコトニ決定セリ今回議會ニ提出セラレタル法案ハ概シテ移民ノ一時禁止ニ依リ国内労働問題ノ調節ヲ計ル外在留外国人ニ対スル米國主義ノ宣伝及無政府主義者ノ取締ヲ主要ナル目的トスルモノニシテ最近当地外

数ヶ所ニ起リタル爆発事件ノ如キハ一層在留外国人取締ノ必要ヲ感ゼシメタルモノト観測セラル

五 六月七日

在ロスアンゼルス 大山領事ヨリ
内田外務大臣宛

米国下院移民及帰化委員長ジョンソン提出ノ

新移民法案ニ付意見稟申ノ件

附屬書

同日大山領事宛在米大使宛公信写

機密公第五号

(七月十八日接受)

大正八年六月七日

在ロスアンゼルス

領事 大山卯次郎(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関シ在米石井大使ヨリノ訓示ニ基キ同大使宛別紙機密華第四号写ノ通り愚見申進候間右供貴覽候 敬具

(附屬書)

機密華第四号写

大正八年六月七日

在ロスアンゼルス

領事 大山卯次郎

在米

特命全權大使子爵 石井菊次郎殿

新移民法案ニ関スル件

今回華盛頓州選出下院議員ジョンソン氏ヨリ新移民法案ヲ議會ニ提出致候趣ヲ以テ右研究ノ上氣附ノ点至急申進方同法案写御添附ノ上客月二十九日附羅往第六号貴信ヲ以テ御申越ノ趣敬承致候右ニ對シ本官ノ概見スル処ニ依レバ

一、本法案第二節 (Sec. 2) 第壹項ニ於テ本法制定後二ケ年間總テノ外國人ノ移入ヲ禁止シ其除外例トシテ第貳項中 Otherwise admissible aliens lawfully resident in the United States トアリ右ハ合衆国内ニ合法ノ住所ヲ有スル外國人中現ニ合衆国ニ在留中ノ者ニ對シ引續キ其在留ヲ許可シ且都合ニ依リ一時出國シタル場合ニハ其再入國ヲ許可スルモノト解セラル、モ Lawfully resident ナル字義ノ解釈如何ニ依リ法文ノ精神ガ有名無実ノモノトナルナキヲ保セス例ヘバ合衆国内ニ於テ店舗、農園、工場等ノ如キ一定ノ事業地又ハ居宅等ヲ有スル者ニ對シテハ解釈上疑問ヲ生スル危險少カルベキモ一定ノ事業地又ハ居所ヲ有セザル労働者又ハ都合

上一時事業ヲ閉鎖シテ帰國セル者 (借地農業家帰國ノ場合ハ大抵然リ) 其他定住地ナキモ旅行者ニアラザル在留者ニ對スル住所ノ解釈ハ或ハ極メテ狹義ニ過ギ事實上彼等ノ再渡航ヲ禁止スルガ如キ結果ヲ生スルコトナシトセズ思フニ本項ハ本法中我在留民ニ對シ最モ利害ノ關係大ナルニ付出来得ベクンバ再渡米者ニ對シテハ入國自由ノ原則ヲ認メシムルヲ必要ト認ム

但シ實際ノ困難ハ法文ノ規定ヨリモ入國ノ際ニ於ケル移民官ノ取扱手加減如何ニアルベシ

一、本節第四項ニ於テ宗教家、著述家、化学者、土木技師、美術家、医師ハ六ヶ月以内ニ限り入國ヲ許可スベシトアリテ俳優、講演者、声樂師、看護婦、大学及専門學校教授、公認セラレタル學者等ノ如キ從來契約移民制限中ヨリ除外セラレタル階級ノ者ヲ其内ヨリ除外セリ從ツテ本法実施ノ上ハ本項列記ノ者ノ外ハ広ク社会ヨリ公認セラル、地位ノ者ト雖モ總テ絶對ニ入國スル能ハサルコト、ナリ又入國ヲ許サル、階級ノ者ト雖モ其滞在ヲ六ヶ月ニ制限セラル、ヲ以テ其入國ノ目的如何ニ依リテハ非常ニ不便併ニ不都合ヲ感ズベク文明

ノ通義タル世界ノ平和的交通ノ本義ニ戻ルモノナルニ付是等特種ノ階級ノ者ニ對スル制限ハ出来得ル限り寛大ナラシムルヲ要ス特ニ当地ノ如キ日本在留者ノ多数ナル処ニ於テハ其娛樂機關タル俳優、音曲師ノ入國醫院ノ為メニ必要ナル看護婦、精神界ノ指導者タル宗教家等ノ入國ヲ自由ナラシムルコトハ啻ニ直接ニ利益ヲ受クル在留者ノ為メノミナラズ結局是等在留者ヲ有スル米國自身ノ為メニ極メテ有利ナルヘシト思考ス

一、同節第五項學生ニ關スル規定中學生ハ總テ入國ノ際予メ其在學スベキ學校又ハ研究所ヲ指定スベキモノナルヤ否ヤ若シ指定スベキモノトセバ途中ヨリ之ヲ變更スル事ヲ得ルヤ否ヤ明カナラザルモ其末文ニ依リテ推測スレバ始メヨリ之ヲ指定シ置クベキヲ予期スルガ如ク又研究ノ都合ニ依リ途中ヨリ指定地ヲ變更スルコトハ差支ナキ精神ナルベキモ法文中明確ニ規定セラレザルヲ以テ現法文ノ儘ニテハ留學生ノ為メニ甚タ不安ナルヲ免レザルベキニ付予メ便宜ノ取扱ヲ受ケラレ得ベキ様修正セシムル必要アリ

一、同節第六項中男子十八歳以下ノ者ニ限り同伴又ハ呼寄

ヲ許ストアリ然ルニ男ノ子十八歳以上ト雖モ二十歳前後ニテハ未タ獨立自營ノ能力ナシ両親ノ都合ニ依リ之ヲ同伴又ハ呼寄せントスル場合ニ當リ其入國ヲ許可セザルコトハ人道上甚タ不都合ナリ然シ帝國政府ニ於テハ從來二十歳以上ノ子ノ渡米ヲ許可シ居ラザルヲ以テ之ヲ變更スル意志ナキ限り本法ノ制限モ右ニ準シ二十歳ニ延長セシムルヲ得バ満足シテ可ナリト思考ス当地ニ於テハ在留民中子ノ呼寄又ハ同伴ハ中学卒業ノ時期ヲ選フ者尠カラス從テ之等ノ子ノ年齢ハ大抵十八歳ヲ超過シ居ルノミナラズ養子呼寄ノ場合ハ入籍後五ヶ年經過ヲ要スルニ付呼寄ノ際ニハ多ク十八歳ヲ超過シ居レリ

一、第五節 (Sec. 5) ハ在留ノ外國人ニ對シ登録ヲ強制スベキコトヲ規定シ第十一節 (Sec. 11) ハ右手續ヲ為スニ當リ被登録者ヨリ一定ノ手数料ヲ徴収スベキコトヲ規定セリ右ハ合衆国ニ於テ内國人ニ課セザルノ手續ヲ外國人ニノミ強制シ其ノ手續ヲ標準トシテ一定ノ課金ヲ賦課スルモノニシテ其結果外國人ハ内國人ノ負担スルコトナキ課金ヲ徴収セラル、コト、ナリ日米條約

一 米國移民法制定及修正一件 六七

第一条第二項該臣民又ハ人民ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ内國臣民又ハ人民ノ納附シ若クハ納附スルコトアルベキ所ト異ルカ或ハ之ヨリ多額ナル課金又ハ租税ヲ徵收セラル、コトナカルヘシトノ規定ニ反スルコト、ナルニ付右手数料ヲ徵收スル規定ハ之ヲ削除セシムルヲ要ス

一、本法ハ本邦人ニ対シ極メテ重大ナル關係ヲ有スト雖モ英吉利人仏蘭西人伊太利人等ハ合衆國トノ交通日本人ニ比シ更ニ頻繁ニシテ且其利害關係更ニ重大ナルニ付之等諸國ノ本法ニ対スル態度如何ハ我ニ取り極メテ多大ナル參考トナルベシト思考ス

右ハ極メテ概括的研究ノ結果ニ有之未ダ充分尽サマル所アルベシト存候得共不取敢氣付ノ廉御參考迄申進候 敬具

(本信写送先、外務大臣)

六 六月十六日 在紐育富井總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

「サクラメント、ビー」主筆ガ「ギュリック」提出ノ移民比例制限案ヲ攻撃セル旨ノ新聞報道報告ノ件

第四三一号

六月十二日下院移民委員會ギュリック博士 percentage immigration plan 即チ外國移民ノ入國ヲ許可スルニ當リ米化セル同國人ノ員數ヲ基礎トシテ其入國ヲ許可スベク日本人支那人等ニ対シテモ同様ノ割合ニテ其入國ヲ許可スルノ案ヲ述ヘタル処委員會ハ勿論一般言論界ノ注意ヲ喚起シ中ニハ同博士ガ日本ノ手先トナリ居ルニアラズヤト疑ヒ居ル向モアリ又加州「サクラメント、ビー」主筆「マクラッチ」ハ十三日同委員會宛文書ヲ以テ極力「ギュリック」案ヲ攻撃シ又日本トノ紳士協約ヲ即時ニ廃棄シ日本人ノ永久の入國禁止及土地所有禁止ニ付立法制定ノ必要アルコトヲ主張セリ

八 六月二十五日 在ホノルル諸井總領事ヨリ
内田外務大臣宛

米國下院移民委員長ジョンソン提出ノ新移民法案ニ関シ意見具申ノ件

附屬書 同日諸井總領事宛在米臨時代理大使宛公信米第七号写

公第一〇二号 (七月二十一日接受)

一 米國移民法制定及修正一件 八

公第九五号

大正八年六月十六日

在紐育

總領事代理領事官補 富井 周(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本月十三日 V. S. McClatchy, editor of the Sacraments Bee & U. S. House Immigration Committee ニ対シ本月十二日 Dr. Gulick ヨリ同委員ニ提出シタル日本ニ好都合ナル所謂移民比例制限案ナルモノヲ攻撃スル書面ヲ送りタル趣本月十四日当地発行 New York Times ニ別紙切抜ノ如キ記事有之候間為御參考茲ニ及送付候 敬具

註 別紙切抜省略

七 六月十七日 在桑港太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ギュリック博士ノ移民比例制限案ガ一般言論界ノ注意ヲ喚起セル旨在米大使ヨリ報告ノ件

第一一七号

在米大使宛本官宛電報第六二号左ノ通大臣ヘ転電アリタシ

大正八年六月二十五日

在ホノルル

總領事 諸井 六郎(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本件ニ関シ別紙写ノ通在米臨時代理大使ヘ回申致置候間右及御送附候 敬具

(附屬書)

米第七号写

大正八年六月二十五日

在ホノルル

總領事 諸井 六郎

在米

臨時代理大使 出淵 勝次殿

新移民法案ニ関スル件

本件ニ関シ客月二十九日付布往第四号ヲ以テ卑見具申方御来示ノ趣敬承本法案ハ申ス迄モナク自國民保護ト過激思想ヲ有スル外人ノ取締及米化助長ヲ目的トセルヲ以テ特ニ區別待遇ト認ムヘキ規程ヲ存セサルノミナラス既ニ紳士協約ノ下ニ渡航ヲ制限セラレ居ル本邦人ニ及ホスヘキ影響ハ多

大ナラサルカ如ク思考セラル、モ本法案ト現行条約及紳士協約トノ關係ハ別論トシテ其実施ノ曉布哇在留本邦人及其渡航ニ及ホス影響ニ就キ氣付キタル一二点ヲ挙クレハ

(一)僧侶又ハ開教師宣教師并護士著述家化学者土木技師藝術家及医師ハ自由渡航ヲ制限セラレ本法案第二条但書ニ依リ停止期間内滞在期間ヲ六ヶ月以内ニ制限セラルコト、ナルモ当地ニ渡航スル本邦僧侶開教師宣教師及医師ハ更代又ハ其ノ事由ニ依リ何レモ長期滞在ノ希望ト必要ヲ以テ渡航スル者ナル実情ニ鑑ミ現行移民法規定ノ通自由入国ヲ許可スルカ或ハ必要ニ応シ六ヶ月ノ期間ヲ延長スルコトヲ得ル様修正セシムル必要アリ又俳優藝術家講演者声楽師看護婦僧侶大学又ハ専門学校教授学芸の職業トシテ公認セラレタル階級ニ属スル者婢僕トシテ雇用セラルル者ノ入国ハ現行移民法第三条但書ニ依リ差支ナキニ本法案第二条但書ニハ移民法第三条但書第四云々トアルヲ以テ当地在留本邦人ノ娛樂機關并ニ病院其他ニ呼寄スヘキ俳優藝術家講演者看護婦新聞記者等ハ熟練労働者トシテ呼寄セノ手続ヲ為ス外渡航全然不可能トナル不便アリ

(二)子息ノ呼寄ハ本案第二条但書ニ依リ十八歳以下ニ限ラレ

員会ニ於ケル論議ノ状況在米臨時代理大使ヨ

リ報告ノ件

第一一九号

在米代理大使發外務大臣宛

第四六七号

「ギョリック」博士が下院移民委員会「Percentage of Immigration Plan」ヲ提出シタル次第ハ往電第四三二一号ヲ以テ報告ニ及ヒタル処其後内密ノ方法ニ依リ入手セル委員会速記録ニ就キ詳細研究セルニ同案中日本人ニ入国ヲ許容セントスル点ニ関シ辛辣極端ナル攻撃の質問頻リニ起リ之ヲ綜合スルニ日本人ノ米化能力ヲ疑フ理由トシテ大要(一)日本人ハ「ルーラー」ニ対シ特別ノ迷信ヲ有ス(二)加州布哇ニ於ケル現在ノ示ス如ク日本移民ハ割拠の生活ヲ為スヲ常トシ米国人ト融合雜居スルヲ好マス(三)日本移民ハ所在日本語学校ヲ設ケ日本の教養ヲ施シ其ノ子弟ノ米化ヲ妨碍シツ、アリトノ三点ヲ指摘セリ尚本月十九日「ゼンクス」教授ハ同委員会ニ出席シ巴里會議カ山東ヲ日本ニ割譲シタルハ他日極東ノ戰禍ヲ生ムモノニシテ米國モ之ニ累セラル、ニ至ルベシト述べ次テ二十日上院議員「フィラン」モ同委員會

タルモ当地在留本邦人ハ移民トシテ渡航ノ困難ナルヨリシテ二十歳以下ノ男子ヲ養子トシテ呼寄スル者不尠是等ハ内規上実子呼寄ノ場合ト異リ入籍後五ヶ年ノ経過ヲ要スル事情ヲ存シ從來ト雖モ往々呼寄ノ機會ヲ失シ当惑セル実例不尠假令五ヶ年ノ内規ヲ減縮スルトスルモ十八歳ニ低下スルハ不便ナルモノアリ

(三)本法案第十一条ノ登録及登録更新手数料ニ関シテ英語ノ素養米國ノ歴史及政体ニ関スル智識ノ深淺ニ依リ更新手数料ヲ異ニスルハ米化促進ノ趣旨ニ出テタルモノナルモ当地在留邦人ノ多数ハ出稼移民ニシテ日本語ノ智識サヘ疑ハル、状況ニ徴シ事実手数料ノ軽減ヲ享クル資格アルモノハ極メテ寥々ニシテ多数ハ毎回規程通ノ手数料ヲ徴収セラル、コトニナリ本邦移民ハ過重ノ負担ヲ受クルノ不便アリ

右不取敢及具申候 敬具

本信写送付先 外務大臣

九 六月二十八日 在桑港太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ギョリック移民法案ニ関スル米國下院移民委

ニ出頭シ紳士協約ヲ廢棄シテ絶対ニ日本移民ノ入国ヲ禁止スヘク日本ハ Huns of east トシテ次ノ戰爭ハ太平洋ニ起ルヘシト何レモ極端ナル排日論ヲ為シ新聞紙中右ノ消息ヲ伝ヘタルモノモアリ形勢頗ル我ニ不利ナルモノアリシカ最近最モ確實ナル筋ヨリ内聞セル所ニ依レハ同委員會ハ二十三日非公式協議ノ結果亞細亞移民ニ関スル論議ハ他國民ニ對シ不法ノ批評ヲ為スモノト誤解セラレ国交上悪影響ヲ及ホスニ至ル虞アルニ付過日来亞細亞移民ニ関スル論議ノ記録ハ之ヲ印刷ニ付スルコトヲ見合セ且一切之ヲ公表セサルコトニ決議シ同時ニ今回ハ亞細亞移民論議ヲ避ケ専ラ政府ニ反対スル好マシカラサル移民ノ禁止又ハ制限方法及在留外國人登録方法ニ付打合セヲ了シタル趣ナリ委員會カ斯ノ如キ態度ヲ取ルニ至レル動機ニ就テハ内探ヲ試ミツツアルガ右ハ政府筋ヨリ注意シタル結果トモ思ハル將又委員會ノ傾向ニ就テハ本官ニ於テモ窃ニ憂慮シ現二十六日「ギョリック」博士來訪ノ際其ノ公平ナル意見ハ之ヲ諒トスルモ不幸ニシテ同博士ガ日本ノ手先ナリトノ疑ヲ受ケタルニ顧ミ余リ強硬ニ之ヲ主張スルハ益排日ノ氣勢ヲ高ムルニ至リ啻ニ目的ヲ達シ得サルノミナラス却テ更ニ排日論ヲ挑発スル

一 米国民法制定及修正一件 一〇 一

虞アルニ付十分慎重ノ態度ヲ執ル様注意ヲ与ヘ置キタルカ幸ヒ委員会ノ態度前述ノ如ク緩和シ来レルニ付追テ委員会ニ於テ直接移民問題ニ付利害關係ヲ有スル真面目ナル方面例ヘハ運輸會社製造家等ノ意見ヲ聴取シ具體的傾向ノ現ハルル迄委員会ニ於テ hearing ヲ終了スル迄尙少クモ一ヶ月以上ヲ要スヘシトノ説アリ
従来通り議會ノ經過ヲ注意スルニ止メ進ンテ何等積極的ニ措置セサル考ニ付御含置アリタシ
桑港「ホノルル」ヘ電報シ「シアトル」「ロスアンゼルス」「ポートランド」ヘ郵送シ尙往電第四三一号モ同様転電及郵送セリ

一〇 六月二十八日 在桑港太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米国下院移民委員会ノ移民法案審議ニ関シ在
留邦人が輕々シキ論議ヲ為サザル様指導方在
米大使ヨリ太田總領事ヘ指示ノ件

第一二〇号

在米大使宛本官宛第六五号

外務大臣宛第四六七号ニ関シ移民委員会今後ノ經過ハ内探

バ我邦人ノ企業ニ如何ナル程度ノ影響アルヘキヤ、比律賓ニ於テ右ノ如キ立法ヲ必要トスヘキ労働過剰ノ事實アリヤ並ニ仮令該案成立スルモ比律賓議會ニ於テ入国禁止ヲ緩和スヘキ立法ヲ見ルヘキ見込アリヤ等ノ点ニ関シ貴地方ノ事情ニ照ラシ貴官ノ御意見至急稟申アリタシ

一二 七月九日 内田外務大臣ヨリ
在米国出淵臨時代理大使宛(電報)

ジョンソン新移民法案ニ関シ再渡航者及商人
ノ入国確保ノ措置、学生ノ卒業後ノ滞米ニ付
意見問合並調査報告方訓令ノ件

第四八七号

公第二三八号貴信添付新移民法案ニ関シ

(一)移民入国禁止期間我再渡航者ノ入国ヲ確保シ置ク必要アル処法案中ニハ再渡航者ノ全体ニ適用セラルヘキ明文ナク四頁五行 Lawfully resident 即チ適法ニ居住セル者ヲ除外セル規定ノ運用ニ依ルノ外ナシト認メラル、ニ付テハ所謂適法ニ居住セル事ノ立証ハ如何ナル手續ニ依ルヘキモノナリヤ右ノ手續ハ在米者及一時帰朝中ノ者ニ取リ格別ノ不便ナク履行シ得ヘキ性質ノモノナリヤ適當ノ向

一 米国民法制定及修正一件 一二

一〇

ノ上隨時通報スヘキニ付御心付ノ廉其ノ都度御申越アリタ
ク尙申迄モナキ義ナカラ右消息外間ニ洩レサル様御配慮相
成タキハ勿論在留民団体又ハ邦字新聞ニ於テ此ノ際輕々敷
論議ヲ為シ徒ニ排日論ヲ挑発スルカ如キコトナキ様然ルベ
ク御指導ヲ請フ

大臣及「ホノルル」ヘ転電シ「シアトル」「ポートランド」
「ロスアンゼルス」ヘ郵報アリタシ

一一 七月八日 内田外務大臣ヨリ
在マニラ相原總領事代理宛(電報)

米国新移民法案ノ比律賓適用ニ関シ調査方訓
令ノ件

第二四号

目下米國議會ニ於テ懸案中ノ移民法案中ニハ同案通過ノ日
ヨリ二ケ年間凡テノ外国移民ガ米國及其領土ニ渡来スル事
ヲ禁スル条項アリ(尤モ米國居住者及其父母妻子、旅行
者、並ニ特殊ノ職業ヲ有スル者ニ対シテハ除外規定アリ)
而シテ比律賓ニ就テハ原則トシテ該案ノ適用ヲ見ルヘキモ
比律賓議會ハ別段ノ法規ヲ通過シ大統領ノ裁可ヲ得テ実施
スルコトヲ得ル事トナリ居レリ就テハ前記移民法案成立セ

ニ就キ取調ヘラレ回電アリタク

(二)商用旅行者ハ四頁九行ノ規定ニ依リ除外セラレ居ルモ旅
行者ニ非ザル商人即チ独立又ハ合併ノ商業ニ従事スル為
メ渡米スル者(年来ノ問題タル商業使用人ニ付テハ往電
第四二九号ノ件未解決ナル限り暫ク四頁第二十五行以下
ノ規定ニヨリ特殊技能者トシテ入国シ得ルモノト看做
シ)ニ付テハ明文ナキニ付将来其ノ入国ニ関シ問題ヲ惹
起スルノ恐アリト認メラル、処本件ハ通商条約ノ保障ニ
モ關係ヲ有スル重要ナル点ナルノミナラス諸外國人モ均
シク不便ヲ感スヘキ義ナルニ付是等商人ノ入国ヲ確實ニ
スル為メ執ルヘキ処置ニ関シ貴見回電アリタク

(三)学生トシテ入国シタル者ハ四頁十四行以下ノ規定ニヨリ
学校卒業後米國ニ滞留シ得サルハ甚苛酷ニシテ之カ緩和
ヲ希望スルモ差当リ我ヨリ進ンデ之ヲ要求スヘキ論拠モ
ナキニ付移民委員会其他ニ於テ此点ニ関シ論議アラハ其
經過御注意ノ上隨時報告アリタシ

追テ該法案ト比律賓トノ關係ニ付テハ目下在マニラ總領事
代理ヲシテ調査セシメ居ル次第アルニ付其回報ヲマチテ申
進スヘシ

一二

一三 七月十五日 内田外務大臣ヨリ
在米出淵臨時代理大使宛 (電報)

ジョンソン新移民法案ニ関シ同法ノ比律賓適
用ニ付米政府ノ考量ヲ求ムル様訓令ノ件

第五〇〇号

往電第四八七号末段ニ関シ在「マニラ」総領事代理ノ報告
ニ依レハ目下同島ニハ移民禁止ヲ必要トスル労働過剰ノ事
実ナク寧ロ其誘入ヲ必要トスル状態ナルモ同島議會ハ米國
ノ意嚮ヲ迎合シ且独立ヲ得ン為日本カ比島内ニ勢力ヲ得居
ラス又將來モ之ヲ得セシメサルヘキコトヲ本國ニ立証セン
トシ本移民法ヲ其儘同島ニ適用スルニ至ルヘシト思考セラ
ルル趣ノ処同島ニ於ケル本邦人企業ノ状態ハ同島土地法問
題ニ関シ申進シタル通ニシテ此際本邦労働者ノ同島渡航カ
禁止セラルルニ於テハ在同島本邦農業家ハ一大打撃ヲ蒙ル
ヘク其ノ打撃ハ恐ラク本移民法ノ成立ニ依リテ本邦人ノ蒙
ルヘキ最モ直接ニシテ且苛酷ナルモノナラント思考セラル
ルニ付貴官ハ其筋ニ対シ右ノ事情ヲ適當ニ布衍開陳シ同島
ニ於テ善意適法ニ成立セル本邦人ノ経営ニ対シ充分ノ考量
ヲ求メラレ移民法中移民禁止期間ニ關スル規定ヲ比律賓ニ

掲載セラレ候ニ付前記「ディリンガム」法案及新聞記事御
参考ノ為メ及送付候也

追テ本件ニ関シテハ既ニ在桑港太田總領事ヲ通ジ河上ノ
注意ヲ喚起致置候此段申添候

註 添附書類ヲ省略ス

出淵臨時代理大使ノ第六〇八号記録中ニ見当ラザルモ其ノ
内容ニ就テハ後出二〇文書ノ附記冒頭ディリンガム案ノ項
参看

一五 八月二十日 在ボートランド杉村領事ヨリ
内田外務大臣宛

米國議會ニ提出セラレタル新移民法案ニ對ス
ル上院議員フィラン氏ノ言説ヲ非難セル「オ
レゴニア」紙社説報告ノ件

公第一〇五号 (九月十六日接受)

大正八年八月二十日

在ボートランド

領事 杉 村 恒 造(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

八月二十日当地オレゴニア紙ハ其社説ニ於テ日本移民問
題ニ関シ「上院議員フィラン氏ノブガブー」ト題シ「フキ

一 米国民法制定及修正一件 一五

實施セサル様交渉ヲ遂ケラレ結果回電アリタシ

一四 八月十九日 在米出淵臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

米國上院議員ディリンガム提出ノ新移民法案
送付及之ニ關スル「フィラン」「ギュリック」
間論争ニ関シ報告ノ件

機密第五七号 (九月十六日接受)

大正八年八月十九日

在米

臨時代理大使 出 淵 勝 次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本月十五日上院議員「ディリンガム」氏ガ新移民法案ヲ提
出シタル次第ハ往電第六〇八号ヲ以テ不取敢及報告候処加
州選出上院議員「フィラン」氏ハ該法案ハ「ギュリック」
博士ガ河上清ト協力立案シタルモノナリトテ同博士ニ宛テ
該案ノ送付ヲ請ヒタル河上ノ書面ヲ發表セルニ対シ「ギュ
リック」博士ハ「フィラン」氏ガ「ディリンガム」案ト同
博士年來主張セル移民案トヲ混同セルヲ指摘シ尚同博士ガ
日本ノ手先ナリトノ攻撃ヲ明確ニ反駁セル記事当地新聞ニ

ラン」氏ノ所説ヲ論評シ平和条約ノ山東問題ニ對スル不滿
ト目下米國議會ニ提出ヲ見タル移民制限法案トヲ混同スル
ノ不当ヲ述ベ「フィラン」氏ハ新移民法案ガ日本移民ヲ絶
對ニ禁止セザルガ為メニ右法案ニ反對スレトモ同案ハ日本
移民ノ入國數ヲ不問ニ附シ得ル程度ノ少數ニ制限スルト同
時ニ日本人ニ對シ侮辱ヲ与ヘザルモノナリトシテ右新法案
ニ賛意ヲ表シ其立案者タル「ギュリック」博士ガ假令予メ
河上氏ト交通シ同氏ノ贊同ヲ得タリト云フモ之ヲ以テ一概
ニ同案ヲ批難スベキニアラズ由來河上氏ハ常ニ日米ノ親善
ニ努力スルノ士ニシテ若シ同案ノ成立ガ日米親善ニ資スル
事アラバソハ寧ロ慶賀スベキコトニシテ決シテ之ニ反對ス
ベキ理由ヲ見ズ日本移民ヲ有効ニ制限スベキコトハ誰人モ
異論ナキトコロナルモ之ガ為メ日本ノ感情ヲ害スルガ如
キ行動ニ出ヅ可カラズトテ一部加州人ノ排日移民態度ノ矯
激ナルヲ批難シテ一加州ノ好惡ヲ以テ全米四十七州ヲ律ス
ベカラズト結論シ「フィラン」氏ノ言説ヲ反駁シタルコト
別紙切抜ノ通ニ有之候右御参考迄及御報告候 敬具
写送付先 在米大使

註 別紙省略

一六 八月二十五日

在米國出淵臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

米國下院議員ジョンソン更ニ新移民法案ヲ提

出ノ件

公第三七九号

(九月十六日接受)

大正八年八月二十五日

在米

臨時代理大使 出 淵 勝 次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

本月二十日華盛頓州選出下院議員ジョンソン氏ガ更ニ新移民法案(H. R. 8572)ヲ提出セル次第ハ往電第六二二号ヲ以テ及報告候処右法案別紙ノ通及送付候間御査閲相成度候也

註

別紙省略ス尚出淵臨時代理大使ノ第六二二号記録中ニ見当ラザルモ其ノ内容ニ付テハ後出二〇文書ノ附記ジョンソン案ノ項參看

一七 八月二十六日

在桑港太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

米國上院ニ提出ノディリンガムノ移民法案ニ

反対スル桑港ブレチン紙ノ社説報告ノ件

附屬書 桑港ブレチン紙切抜

公第二四七号

(九月十七日接受)

大正八年八月二十六日

在桑港總領事 太田 為 吉(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

上院議員ディリンガム氏カ臨時議會ニ提出シタル比例移民法案ニ関シテハ既ニ在米大使館ヨリ報告ニ接セラレ候事ト思考セラレ候而シテ右法案ニ関シ本月十八日ノ当地「ブレチン」ハ其論說欄ニ於テ大要『上院議員ディリンガム氏提出ノ移民改正案ニ対シテハ躊躇ナク反対ノ意ヲ表セサルヲ得ス右法案タルヤ東洋人ノ入國ヲ容易ナラシムルモノニシテ其条項ノ下ニ日支印各人ハ既ニ入國在留スル自國人總數ノ五「パーセント」ノ割合ヲ以テ年々入國スルコトヲ得ベシ、五「パーセント」ハ一見小ナルガ如キモ數年ヲ出デズシテ日、支、印等各人ノ數ハ倍加スルニ至ルヘシ米國ハ以上ノ諸國民ト和誼ヲ保ツヲ欲スルモノナルカ彼等ヲ敬遠スルニヨリテ一層平和ヲ保ツコトヲ得ベシト思考ス蓋シ此等ノ國民ガ我カ文明ニ群入シ吾人ノ生活程度ヲ向下スル

ノ因トナルハ吾人ノ欲セサル所ニシテ彼等ハ仮令吾人ト言語着衣ヲ同ウシ共ニ選舉權ヲ享有スルニ至ルモ依然トシテ外國人タルヲ失ハズ吾人ハ彼等ト選舉場ニ肩ヲ並ブルヲ欲セザルナリ而シテディリンガム案ハ總テ低廉ナル亜細亞人ノ勞力ヲ我國ニ弥漫セシメントスル真目的ヲ蔑視スル傾アルガ故ニ一層危險ナリトス吾人ハ五「パーセント」ハ扨テ置キ半「パーセント」ノ増加ヲモ東洋人ニツキテ嚴禁セザルベカラズ』云々ト論シ居候從來我ニ対シ比較的良好ノ態度ヲ維持シ來レル同紙ガ右ノ如ク露骨ナル筆法ヲ弄スルハ注目ニ値スルコト、思考セラレ候委細ハ別添切抜ニテ御承知相成度為御參考此段及報告候 敬具

(附屬書)

桑港ブレチン紙切抜

MONDAY

AUGUST 18, 1919.

Oriental Immigration.

No time should be lost in registering emphatic protest against the new amending immigration bill introduced to Congress by Senator Dillingham. It is a

measure to make it easier for the Oriental to enter this country. Under its provisions Japanese, Chinese and Hindus could come in at the rate of five per cent per year of the total already here.

Five per cent increase may seem small at first blush, but it would not be so many years before the total of Japanese, Chinese and Hindus would doubled.

If five per cent of their present numbers it would be a matter of twenty years, but if compounded yearly it would be very much less than that time.

America is at peace with the peoples named, and she wants to keep at peace with them, but she thinks she can keep the peace better if they are kept at a distance. There is no objection to the Chinese, Japanese and Hindus in China, Japan and India, but we don't want them crowding into our civilization and lowering its standard of living. They are not of us and can never be. They are the aliens who would always be aliens in our midst even though they spoke our speech, wore our

clothes and went with us to the ballot box. We don't want to rub shoulders with them at the ballot box. We want to keep this country American.

The Dillingham bill is all the more dangerous because it tends to disguise its real purpose, which is the flooding of this country with cheap Asiatic labor. It is a device of the exploiter who wants to get the highest price for his goods and to pay the lowest wages for producing them. Dillingham is consciously or unconsciously the agent of the champions of cheap labor, and he is hoping to put his measure through by a proposition for a seemingly innocent increase of five per cent. We don't want any increase, not two and three-quarter per cent, or even half of one per cent. We want straight out prohibition when it comes to the Oriental.

一八 九月三十日 在桑港太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

**米國下院移民委員会ニ於ケルギュリック博士
ノ移民案反対意見在米代理大使ヨリ報告ノ件**

問題ニ關聯シ写真結婚ニ關スル議案ヲ提出スルコトアルヤニ伝ヘラレタリシニ付本官其後第三次官ニ面会ノ際右「フィラン」ノ行動ニ關シ尋ネタル処「フィラン」ガ近來頻リニ東洋人移民問題ニ關シ國務省ニ對シ種々ノ質問ヲ為シ特ニ写真結婚ニ付何等カノ議案ヲ提出セントシタル模様アルハ事実ナルカ國務省ニ於テハ右見合セ方ニ付折角同人ヲ説得シタル旨内話セリ

右「ポートランド」「シアトル」「ホノルル」「ロスアンゼルス」ヘ転電セリ

一九 十月七日 在シアトル松永領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國移民法中ノ時効ノ制度ニ關シ報告ノ件

第三七号

外務大臣宛在米大使宛電報第六七三号ニ關シ米國移民法ガ入國後三年又ハ五年以上經過シタル不正入國者ヲ逮捕送還セザルコトヲ規定セルハ所謂時効ノ制度ヲ設ケタルモノト主張シ得ベシ而シテ時効ノ効力ハ徹底的ナラザル可カラザルガ故ニ一定年限ヲ經過シタル者ガ正当入國者ト同一ノ取扱ヲ受クルコトハ当然ナリ故ニ米國移民局ガ之ニ對シ再渡

一 米國移民法制定及修正一件 一九二〇

第一四七号

在米代理大使發貴大臣宛第六九八号

九月二十五日「サクラメント、ビー」主筆「マクラッチー」及「シアトル」ノ Miller Freeman ハ「ギュリック」博士ノ移民案ニ反對ノ陳述ヲ為スタメ下院移民委員会ニ出頭シ極力日本移民ノ攻撃ヲ為セリ「マクラッチー」ハ太平洋沿岸ノ移民問題ハ人種問題ニ非ス單純ナル經濟問題ニ過キサルト恰モ日本内地ニ於テ支那人及朝鮮人労働者ノ排斥ヲ為シ居ルニ異ナラスト加州ニ於ケル野菜等カ大部分日本人ノ手ニ成リ居ル現状ヲ示シ竝在米ノ日本人ハ(不明)九年以來既ニ八倍ニ増加セルコト percentage plan ニ依レハ在米日本人ハ八十年後ニ約二百萬、百四十年後ニ一千万ニ達スヘク為ニ米國共和國ノ崩壊ヲ來タスベシ云々ト述ベ「フリーマン」ハ「シアトル」經由日本人ノ入國統計ヲ拳ケ日本ハ子供ヲ生マシムル為ニ婦人ヲ入國セシメ且日本政府ハ正金銀行ヲ通シ移民ニ對シ財政上ノ援助ヲ与ヘツ、アル旨ヲ述ヘタリ尚其ノ際傍聴セル上院議員「フィラン」ガ目下國務省ニ於テモ写真結婚問題ヲ研究シツ、アルコトヲ確メタル旨發表セル次第ナリ且同人ハ過般來平和條約批准

航又ハ呼寄セノ權利ヲ制限セントスルハ時効ノ主義ニ反スト思考ス本件ニ對シテハ成ル可ク時効論ヲ主張セラレンコトヲ希望ス但シ時効論ハ主義トシテ飽迄主張スルモ正業ニ從事セザル者ニ對シテモ証明ヲ發給スルノ意味ニ非ズ前記御參考迄ニ卑見申進ズ

在米大使ヘ転電セリ

二〇 十月十一日 在米國出淵臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院議員フィラン日本人ノ入國ヲ禁止スル移民法修正案提出ノ件

附記 大正八年米國議會ニ提出ノ移民法案

第七二八号

上院議員「フィラン」ハ十月十日現行移民法第三条中亜細亞ノ一定地理的区域内ノ住民入國禁止規定ヲ改正日本ヲモ此ノ区域内ニ包含セシムベキ法案ヲ提出セリ同人ハ日本ガ紳士協約ノ条文並ニ精神ニ違反シ太平洋沿岸ニ居ル日本人ノ増加ハ驚クベキ數ニ達シ沿岸一帯人心ノ不安ヲ招キ現状ニ放置セバ遂ニ平和ヲ脅カスニ至ルベシト云ヘリ

(附記)

大正八年米國議會ニ提出ノ移民法案(通商局調)

一七

一 米国民法制定及修正一件 二〇

ディリンガム案

大正八年八月十五日 加州選出上院議員 Dillingham 提出

大正八年八月十七日 日本省着在米大使來電第六〇八号

概要

- 一 亜細亞移民禁止ニ関スル現行移民法例ヘハ支那人排斥法、日米間紳士協約等ヲ全部廢棄スルコト
- 二 一九二〇年七月一日ヨリ歐洲人亜細亞人共一律ニ毎年各國人ノ米国内現居住者数ノ百分ノ五ノ割合ニテ入国ヲ許可スルコト

目的

東洋諸國殊ニ日本トノ移民問題ニ関スル紛議ヲ根絶シ同時ニ歐洲方面ヨリノ移民制限ニ依リ米国内ノ労働過剩ヲ防止セントスルニ在リ

ジョンソン案

大正八年八月二十二日 華府選出下院議員 Johnson 提出

提出

大正八年八月二十四日 日本省着在米大使來電第六二二号

概要

- 一 移民法案通過後二年間合衆國ヘノ移民ヲ禁止ス
- 二 二年間ノ移民禁止ニ一定ノ除外例ヲ設ク
- 三 除外例ノ条項ニ相当スルモノハ適當ノ旅券ヲ携帯スルコト右旅券ハ出發港ニ駐在スル米國領事ノ査証ヲ受クルコト、渡米者ハ米國領事及上陸地米國官憲ヘ自己ノ身分等ヲ詳細ニ記入セル書面ヲ提出スルコト
- 四 二箇年禁止期間終了後ノ入国規定ヲ設ケ

(A) 禁止期間ノ除外例条項ニ相当スルモノハ単ニ前記旅券ニ関スル手續ニ依リ入国シ得ルコト

(B) 其他ノ者ハ上陸ノ際移民官憲ヘ次ノ条項ヲ含メル陳述書ヲ提出シ入国ヲ許可セラル、コト

(1) 米國市民トナル目的ニテ入国ス

(2) 可成速ニ英語ヲ修得シ米國ノ制度及組織ヲ知り其ノ法律ヲ遵守ス

(3) 市民ト成ル迄毎年適當ノ官憲ニ登録ス

(4) 登録又ハ市民トナルニ必要ナル手續ヲ怠リタル場合ニハ送還セラル、コトヲ承認ス

フィーラン案

概要

大正八年十月十日 加州選出上院議員 Pelear 提出

大正八年十月十二日 日本省着在米大使來電第七二八号

現行移民法第三条中亜細亞ノ一定地理的区域内ノ住民入国禁止規定ヲ改正シ日本ヲモ此ノ区域ニ包含セシムルコト

理由

日本カ紳士協約ノ条文並精神ニ違反シ太平洋沿岸ニ在ル日本人ノ増加ハ驚クヘキ数ニ達シ沿岸一帯人心ノ不安ヲ招キ現状ニ放置セハ遂ニ平和ヲ脅カスニ至ルヘシ

ローザアース案

大正八年十月十四日 下院外交委員会可決、下院議員

Rogers 提出案——十月十六日 日本省着在米大使來電第七三三号

大正八年十月二十二日上院通過——十月二十四日同右第七五四号

(下院ニテ上院ニ於ケル若干ノ修正ニ同意セハ裁可ヲ得ル為大統領ニ送付セラルヘシ)

概要

一 米国民法制定及修正一件 二一

戰時出入国取締法失効後一箇年間旅券名簿ニ依リ外國人入国ヲ取締ルコト

二 十月十六日

在米出淵臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

米國上院議員提出ノ移民法修正案送付ノ件

附記 右移民法修正案

公第四七四号

(十一月十四日接受)

大正八年十月十六日

在米

臨時代理大使 出淵 勝次(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

加州選出上院議員「フィーラン」ガ移民法ノ排日の修正案ヲ提出シタル趣ハ往電第七二八号ヲ以テ不取敢及報告候処右法案ニ部別紙ノ通致ニ及送付候間御査閱相成度候也

註 右修正案ヲ省略シ外務省作成ノ同案仮訳文ヲ次ニ附記ス

(附記)

フィーラン氏提出ノ移民法修正案仮訳文

千九百十七年二月五日制定「合衆國外國人入国移民及外國人在留ヲ規制スル法律」第三条第一項ヲ左ノ通改正ス

第三条左ノ各号ニ該当スル外国人ハ合衆国ニ入国スルコトヲ拒絶ス

白痴、精神耗弱者、精神薄弱者、癲癇病者、瘋癲病者
曾テ瘋癲ニ罹リタルコトアル者

生来ノ精神羸弱者

慢性酒精中毒者

貧困者

乞丐

浮浪者

各種ノ結核患者又ハ嫌疑スヘキ若ハ危険ナル伝染病者
前記入国ヲ拒絶セラルヘキ各号ニ該当セサルモノニシテ
検査医ニ依リ其者ノ生計能力ニ影響スヘキ精神上若ハ身
体上ノ欠陥ヲ有スト認証セラレタル者

重罪若ハ其他ノ破廉耻罪ヲ犯シタルコトヲ自認シ又ハ之
カ為有罪ノ宣告ヲ受ケタル者

多妻者又ハ多妻主義ヲ信奉スル者

無政府主義者、合衆国政府若ハ一切ノ法律制度ヲ兵力若
ハ暴力ニ依リ顛覆破壊スルコトヲ是認シ若ハ主張スル
者、組織の政府ヲ排議シ若ハ之ニ反抗スル者、官公吏ノ

外国ニ於テ印刷、出版若ハ配布セラレタル労働者募集広
告ニ依リ到来シタル者

公共ノ負担トナルヘキ虞アル者

本法ノ規定ニ依リ送還セラレ該送還ノ日ヨリ一年以内ニ
再ヒ入国ヲ求ムル者ニシテ其外国港ニ於ケル乗船前若ハ
接壤外国領土ヨリスル入国ノ企図前ニ労働務長官ヨリ入
国再出願ノ許可ヲ得サリシ者

他人ニヨリ渡航ノ切符若ハ渡航費ヲ支払ハレ又ハ他人ノ
補助ニ依リ渡来スル者ニシテ前記拒絶セラルヘキ各種ノ
者ニ属セサルコトヲ確實且満足ニ証明スルコト能ハサル
者

直接間接ニ法人、組合、協会、自治団体、若ハ外国政府
ニ依リ其ノ渡航切符若ハ渡航費ヲ支払ハレタル者

密航者但他ノ点ニ付入国資格アル場合ニハ労働務長官ノ
裁量ニ依リ入国ヲ許可セラル、コトアルヘシ

十六歳以下ノ子女ニシテ父母若ハ其ノ執レカニ帯同セラ
レサルカ又ハ其ノ許ニ赴ク者ニ非サル者但労働務長官ニ
依リ公共ノ負担トナルベキ虞ナシト認メラレ且他ノ点ニ
付入国資格アル場合ニ同長官ノ裁量ヲ以テ之カ入国ヲ許

暗殺ヲ主張スル者又ハ財産ノ不法破壊ヲ主張若ハ教導ス
ル者組織の政府ニ対スル排議若ハ反抗ヲ懷抱教導スル団
体ノ會員若ハ之ニ加入シタル者、合衆国政府若ハ他ノ組
織の政府ノ官吏中特殊ノ個人若ハ一般官吏ニ対シ其官職
ヲ有スルノ故ヲ以テ之ヲ不法ニ襲撃若ハ殺害スルノ義
務、必要若ハ至当ナルコトヲ主張教導スル者、又ハ財産
ノ不法破壊ヲ主張教導スル者

醜業婦又ハ醜業其他背徳ノ業務ヲ営ム目的ヲ以テ合衆国
ニ到来スル者

醜業其他背得ノ業務ヲ営マシムル目的ヲ以テ醜業婦若ハ
其他ノ者ヲ直接間接ニ媒合シ若ハ媒合セントシ又ハ輸入
スル者

醜業ノ所得ニ依リ生活スル者又ハ其所得ノ全部若ハ一部
ヲ取得スル者

本条以下ニ契約労働者ト称スル者即チ凡テ雇入ノ申込若
ハ約束ニ依リ又ハ口頭、害面、印刷物ヲ以テスル明示若
ハ黙示ノ契約ニ依リ招請、補助、奨励、勧誘ヲ受ケ合衆
国内ニ於テ技能ヲ要スルモノト否トヲ問ハス労働ニ従事
セントシテ渡来シタル者

可セラレタル者ハ此ノ限ニアラス

現行条約ニ依リ反対ノ規定アル場合ヲ除キ北緯二十一度
ヨリ五十一度間、「グリーンウキッチ」東経百十九度ヨ
リ百五十七度間ニ位セル合衆国領ニ属セサル諸島ノ土人
タル者（註 此ノ項新設）

北緯二十度以南「グリーンウキッチ」東経百六十度以西
南緯十度以北ノ間ニ位スル亜細亞大陸ニ隣接シ合衆国領
ニ属セサル諸島ノ土人タル者又ハ「グリーンウキッチ」
東経百十度以西「グリーンウキッチ」東経五十度以東北
緯五十度以南ノ間ニ位スル亜細亞大陸上ニ在ル国、地方
又ハ属領地中ヨリ「グリーンウキッチ」東経五十度ト六
十四度及北緯二十四度ト三十八度トノ間ニ在ル土地ヲ除
キタル部分ノ土人タル者又ハ現時何等カノ方法ニ依リ合
衆国ヨリ排斥セラレ又ハ之カ入国ヲ防止セラル、一切ノ
外国人

前項ノ規定ハ左ノ地位又ハ職業ヲ有スル者ニハ之ヲ適用セ
ス

官吏、僧侶又ハ布教師、宣教師、弁護士、医師、化学
者、土木技師、教師、学生、著述家、美術家、商人、漫

一 米国移民法制定及修正一件 二二

遊者並右等ノ正妻又ハ十六歳以下ノ子女ニシテ之ニ帶同セラル、カ若ハ其後合衆国入国ヲ出願スル者但シ右等ノ者又ハ其正妻若ハ其ノ外国出生児ニシテ之ヲ例外階級ニ屬セシメタル地位又ハ職業ヲ合衆国ニ於テ維持セサル者ハ合衆国ニ不法ニ居住スル者ト認メ本法第十九条ニ依リ送還セラルヘシ

本項ノ規定ニ違反シ合衆国ニ入国シ若ハ入国セントスル者ハ輕罪ノ罪ヲ以テ論シ五千弗ノ罰金若ハ一年ノ禁錮又ハ其ノ兩者ニ処ス

註 一九一七年二月五日制定ノ米国移民法ニ付テハ日本外交文書大正七年第一冊一文書ノ附記参照

二二 十二月四日 在桑港太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米国ニ於テ市民タル資格無キ外国人ノ出生児
ニ米国籍ヲ認メザル趣旨ノ憲法修正案米國議
会ニ提出ノ件

第二一二号

大臣宛在米大使電左ノ通

第八四四号

十二月二日華盛頓州選出上院議員 Johns ハ左記趣意ノ憲法修正 Concurrent resolution ヲ提出シ右ハ直ニ司法委員ニ附託セラレタリ

將來米国内ニ生レタル外国人ノ子ハ其両親ガ米国市民タル資格アルニ非ザレバ米国市民タルヲ得ズ

各領事「ホノルル」ヘ電セリ

事項二 米国各州ノ排日問題雜件

二三 一月十四日 在ポートランド木村領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オレゴン州議會下院ニ外国人土地所有禁止法案提出ノ件

第一号 (一月十五日接受)

一月十三日オレゴン州議會下院ニ外国人土地所有禁止法案提出セラレタリ、詳細取調中ナルモ不取敢報告ス
在米大使ヘ電報セリ

二四 一月十六日 在ポートランド木村領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オレゴン州下院ノ外国人土地所有禁止法案ノ

要領及其対策ニ付報告ノ件

(一月十七日接受)

第二号
往電第一号ニ関シ
土地案要点ハ

(一) 本法案実行後外国人ニシテ土地ヲ獲得シタル者ハ七箇年以内ニ自ラ米国民トナルカ若クハ善意ノ第三者ニ之ヲ

二 米国各州ノ排日問題雜件 二三 二四 二五

売買譲渡セザルトキハ該土地ハ州ニ没収セラルヘシ

(二) 持主ノ過半数カ米国民タラザル法人ハ土地ヲ獲得スルコトヲ得ズ

(三) 右法人カ抵当權実行ニ依リ土地ヲ取得シタル場合之ヲ七箇年以内ニ米国民ニ善意ニ売買譲渡セザルトキハ州ニ没収ス此規定ハ個人ニ対シテモ同シ

(四) 外国人ノ土地租借期限ハ二十一年トス法人モ同シ

右法案ハ下院議員 C. Schuebel (Oregon City 選出) 弁護士(共和党)ノ提出ニ係リ any alien ナル文字ヲ用キ加州土地法ノ如ク alien eligible to citizenship 等ノ字句ヲ含マズ一般外国人ニ適用サルモノナルモ事実上本案通過ノ結果ハ本邦人ハ七箇年以上土地ヲ所有スル能ハザルコトトナルヲ以テ当地日本人会ヲ通シ商業會議所ニ依頼シ該案防止ノ運動ヲ開始セシメタリ議案郵送ス
在米大使ヘ電報セリ

二五 一月十八日 在ポートランド木村領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二三